

ノ七才ヨリ二十才迄ノ如キハ漸々發育スルモ其ノ差極メテ僅少ニシテ余ガ研究シタル精神發育ノ年齡區分ト比較スルコト極メテ困難ナルヲ以テ腦ノ重量ト精神發育トノ比較ハ此處ニ斷念シ專ラ頭圍ト精神發育ト比較セントス、腦重量ニ關スル研究ハ前二氏ノ研究ヨリ委シキ報告ハ文献上一ツモ發育スルコト能ハザリシハ甚ダ遺憾ナリトス。

第二章 身體發育ト精神發育ノ比較

前章ニ述ヘタル如ク身體發育ノ代表曲線ハ精神ニ最モ直接ノ關係ヲ有シ他ノ身體發育曲線ト同形同性質ニシテ而モ最モ簡單ニ生休ニ於テ測定シ得ル處ノ頭圍曲線ヲ以テ代表トナシ此ノ曲線ト精神各曲線トヲ比較セントス先ヅ最モ初メニ測定シタル記憶曲線トノ比較研究ヲ左ニ述ベントス。

第一、身體發育代表曲線ト記憶曲線トノ比較

既ニ發表セル記憶曲線ノ形狀ヲ再ビ此處ニ舉グレバ七才ヨリ約九年半迄ハ男女共急激ニ發育シ而モ女子ハ男子ヨリモ猶ホ優良ナリ九年以後十一年半附近迄ハ男女共極メテ徐々トナリ女子猶ホ優勢ナリ、十一年半ヨリ十二年半附近ニ至ル約一ケ年ハ再ビ發育優良トナリ男子ノ發育盛ニシテ女子ノ記憶曲線ニ追及セントシ十四年附近ニ於テ男子ハ益々發育シ女子ノ曲線ヲ越エテ上昇シ之レニ反シテ女子ノ曲線ハ十二年附近ヨリ約十五年位迄ハ發育極メテ徐々ニシテ十四年附近ノ如キハ男子ノ發育曲線ヨリ下ニアリ十六年附近以後ハ女子少シク優勢ナルモ概シテ男子ノ曲線ト互ニ密接シ十七年附近ニ於テハ

男女殆ド(極メテ僅少ナル差ヲ以テ)同一ニX軸ニ並行シテ走ル即チ發育ガ全ク停止シタルモノト看做シテ可ナリ即チ發育ノ停止ハ十七・二又二十年ニアルモノト認定ス。今之レヲ身體代表曲線頭圍發育曲線ト比較スルニ同曲線ガ男子ハ六年半ヨリ九年半迄急激ニ發育スルコト、女子ノ曲線ハ八年半迄ガ急激ニ發育スルコト、九年以後十一年半頃ニ至ル迄記憶曲線ガ發育遲鈍トナルコト亦身體曲線ノ發育遲鈍ト一致シ即チ男女共同様ノ經過ヲトル然レモ頭圍曲線ニ於テハ記憶曲線ヨリモ女子ニ於テ約一ケ年早ク遲鈍形狀ニ移ルモノナリ、記憶曲線ハ十一歳、十二歳附近ニ於テ再ビ急ニ上昇スル事ハ頭圍曲線ニ於テモ亦其ノ形跡明ニ存在ス然レトモ只異ル點ハ身體發育女子曲線ハ此ノ附近ニ於テハ非常ニ發育スルモノナレドモ記憶曲線ハ全ク反對ニ停止スル傾向ヲ有ス、其ノ傾向ハ拾貳才ヨリ拾六才迄ガ殊ニ著シク記憶曲線ニ於テハ女子ノ發育極メテ遲々タルニ反シ身體女子曲線ハ此ノ年齡内ニ於テ最モ多ク男子曲線ニ接近スルモノニシテ(身體身長曲線ノ如キハ十二、十三、十四、十五年迄ハ男子ヨリモ女子ノ方、ヨリ大ナル發育ヲナス)十三、十四、十五年殊ニ甚シク記憶曲線ヲ見ルニ其ノ附近ハ女子曲線ハ今迄男子ヨリ優勢ナリシニ拘ラズ急ニ發育遲鈍トナリ男子曲線ヨリ下ル傾向ヲ表ス、之全ク春情發動期ニ於ケル奇ナル現象ニシテ女子ハ男子ヨリモ其ノ影響ヲ受ケルコト大ニシテ身體發育ノ盛ナル時代ニハ記憶發育ハ寧ろ遲鈍トナル現象ヲ表ス、十六年以後ハ既ニ男女ノ發育ハ相合シ身體曲線ノ十八年半ノ停止期ニ相當スル記憶發育ノ停止期ハ之レヨリ約一ケ年早ク表ハルモノニシテ即チ記

憶ノ發育ハ身體發育ノ代表頭圍曲線ヨリモ滿一ケ年前ニ於テ發育停止ヲナスモノニシテ體重發育ノ停止期約十七年半ト略同一ノ發育停止ヲ起スモノナリ。頭圍曲線ト記憶曲線ノ全体ノ形狀ハ全ク異リ一見其ノ性質ヲ異ニスル觀アレドモ其ノ曲線ノ上下發育ノ年齡等ハ前述ノ如ク記憶曲線ハ略身體曲線ト種々ノ點ニ於テ相一致スルモノナリ、要スルニ記憶曲線ハ

- (一)、頭圍曲線ト記憶曲線ハ其ノ發育ノ性質ヨク一致スルモノナリ。
- (二)、女子ノ春情發動期拾貳歳半ヨリ拾五歳附近迄ハ身體曲線ト反對ニ男子ヨリモ發育遲鈍トナル。
- (三)、發育停止期ハ頭圍ノ發育停止十八年半ヨリ約一ケ年以上早ク體重ノ停止期ト略一致ス。

第二、身體發育代表曲線ト聯想代表曲線トノ比較

此ノ聯想反應時間平均曲線ハ既ニ第三回報告ニ於テ詳述シタルガ如ク諸種ノ刺激語ヨリ生シタル反應時間ノ全部ヲ平均シタルモノニシテ其ノ曲線ノ高サハ直接ニ反應時間ヲ表シ水平軸ニ於テハ年齡ヲ表ス所ノ曲線ナリ、此ノ場合ニ於テハ曲線ノ高サガ大ナレバ反應時間ガ遲延シタルモノニシテ換言スレバ聯想ノ時間ガ遲鈍ナル意味ナリ高サノ低キモノハ之レニ反ス、但シ聯想ニ於テ時間遲鈍ナレドモ反應語ノ正確ヲ期待スル場合ニ於テハ反應時間ノ平均曲線ノミニテハ決シテ完全ナル良キ聯想ト見做ス事能ハズ故ニ聯想ノ良否ヲ表スニ反應時間ノミノ成績及ビ曲線ヲ用フル事ハ多少不完全ナル事ナリ、

故ニ余ハ聯想研究ノ一部門ナル反應語現出度數ノ最多ナル種類ヲ反應時間ト併用シ以テ其ノ不完全ヲ可及的補救セント欲シ茲ニ最モ多ク現出スル所ノ内聯合ノ度數(全反應語現出度數ヲ百トシ、各聯合ノ種類ノ現出度數ヲ百分比トセル數ナリ)ト前記反應時間平均ト平均シタル一曲線ヲ作り夫レヲ以テ身體代表曲線ト比較セントス。但シ第三報告ニ於ケル前記二種ノ曲線ハ其ノ形狀ニ於テ記憶注意、能率等ノ曲線ト趣ヲ異ニシ發育スレバ益々其ノ高サヲ減ズル傾向アルガ故ニ後章 於テ述ベントスル精神發育總括論ニ際シ之等ト平均スル場合ハ頗ル無意味ナル曲線ヲ生ズルガ故ニ各平均年齡(年級)ニ於ケル曲線ノ高サヲ各々百ヨリ減ジ以テ其ノ曲線ノ性質ガ第三報告ニ述ベタル曲線ノ正反對ノ形狀トナセリ、加之其ノ意義ニ於テハ同ジク前記曲線ト正反對ノ意義ヲ有シ年齡ガ増シ精神ガ發育スルニ從テ曲線ノ高サガ増加スルモノナリ即チ左ニ其ノ數ヲ舉グ。

年齡	百ヨリ減ジタル反應時間		百ヨリ減ジタル現出度數		聯想代表的平均	
	男	女	男	女	男	女
尋常一年	八三	七九	六	六	三〇	三六
尋常二年	九〇	八六	七	七	三〇	三六
尋常三年	九七	九三	八	八	三〇	三六
尋常四年	一〇四	一〇〇	九	九	三〇	三六
尋常五年	一一一	一〇七	一〇	一〇	三〇	三六
尋常六年	一二	一二	一一	一一	三〇	三六
尋常七年	一三	一三	一二	一二	三〇	三六
尋常八年	一四	一四	一三	一三	三〇	三六
尋常九年	一五	一五	一四	一四	三〇	三六
尋常十年	一六	一六	一五	一五	三〇	三六
尋常十一年	一七	一七	一六	一六	三〇	三六
尋常十二年	一八	一八	一七	一七	三〇	三六
尋常十三年	一九	一九	一八	一八	三〇	三六
尋常十四年	二〇	二〇	一九	一九	三〇	三六
尋常十五年	二一	二一	二〇	二〇	三〇	三六
尋常十六年	二二	二二	二一	二一	三〇	三六
尋常十七年	二三	二三	二二	二二	三〇	三六
尋常十八年	二四	二四	二三	二三	三〇	三六
尋常十九年	二五	二五	二四	二四	三〇	三六
尋常二十年	二六	二六	二五	二五	三〇	三六

師範二年 一、七、七、三 九 三 四、一 四、八 六、五 六、九
 師範三年 一、七、七、三 九 三 四、一 四、八 六、五 六、九
 師範四年 一、九、九、九 七 七 四、六 五、四 六、二 六、二

以上ノ聯想代表曲線ハ先ヅ男子ニ於テハ全体ニ於テ年齢ガ増加スレバ益々其ノ高キヲ加フル傾向ナレドモ師範ニ於テハ頗ル奇異ノ形狀ヲ表シ年齢増加ニ反シテ其ノ高サヲ著シク減ズルモノナリ、即チ尋常ノ初級ヨリ師範一年迄ハ漸々高サヲ増シ師範二、三、四年ハ著シク減ズ。女子ノ曲線ニ於テハ男子ノ形狀ノ如ク不正形ニ非ズシテ尋常三年ノ高點ト高等一年ノ高所ヲ除クノ外ハ漸次師範二年ニ至ル迄殆ド直線形ニ上昇シ三、四年ニ至テ少シク高サヲ減ズ。次ニ男女ノ曲線ヲ比較セシニ全体ニ於テハ女子ノ曲線ハ著シク男子ノ下ニアリ即チ聯想全体ヨリ考フレバ殊ニ反應時間ニ於テ男子ヨリモ遅キ時間ヲ有ス、又換言スレバ聯想ハ内容ニ於テハ別トシ著シク男子ヨリモ不活潑ナリ、其ノ傾向ハ既ニ日本婦人ノ常習トシテ言語ヲ慎重ニ成ル可ク發言セザル傾向アルガ爲メナラン、其ノ曲線ノ高サノ減少ハ男女共殊ニ師範年齢ニ於テ著シキモノナリ則チ此ノ平均曲線ハ反應時間ノ影響ニ依リテ斯ノ如キ減少シタルモノニシテ既ニ女子ノ反應時間ガ男子ヨリモ甚シク遅延スル傾向アリテ特ニ優等ノ注意深キ春情發動期中ニアル女生徒ニ於テ其ノ減少著シク表ハル、モノナリ、即チ男女ノ曲線ガ尋常三年迄ハ(約十年)近接又ハ相上下シ約滿十一年ヨリ滿拾四年迄ハ男子ノ曲線ヨリ甚ダ隔リテ其ノ下方ニ走り滿十五年附近ヨリ再ビ接近シ十七年半附近ヲ除クノ外男女曲線ハ互ニ相上下シテ走ル。

今身体代表曲線ト比較スルニ總体ニ於テ其ノ曲線ノ性質ハ全ク相異ナレル形狀ヲ有スルガ故ニ記憶曲線ノ如ク精細ナル近似點ヲ舉グルコト能ハズ、然レドモ男子ノ身体曲線ニ於ケル九年半ヨリ十一年半ニ至ル發育停止ハ少シク前ニ表ハレ約八年半ヨリ十年ニ至ル間停止ス、其ノ他ノ曲線上昇ノ形狀ニ關シテハ到底近似ノ點ヲ見出ス事能ハズ、發育停止期ハ前ニ述ベタル如ク熟考及ビ注意深キ生徒ニ於テハ師範年齢以前ニ於テモ猶ホ存在ヲ認ムルガ故ニ曲線ノ上下ヲ以テ停止期ヲ確實ニ判斷スルコト能ハズ、然レトモ強テ其ノ意義ヲ求メント欲スレバ男子ハ拾七年年附近ニ於テ最高ニ達シ夫レヨリ以後ノ年齢ニ於テハ熟考ト注意トガ加ハリ曲線ハ著シク下降スルモノトスレバ聯想ノ發育ノ停止ハ大約十七年年頃ニ存在スルモノナラン。女子ノ發育停止モ亦確實ニ表スルコト能ハザレドモ最高點ヲ有スル十七、二年(師範二年)附近ナラント思ハル、次ニ女子ノ春情發動期ニ於ケル影響ハ身體發育曲線ニ於ケルヨリモ早キ年齢ニ於テ現出ス、即チ身體ニ於テハ拾二年ヨリ約拾五年ニ至ル間男子ノ曲線ニ甚シク近接スルモ聯想ニ於テハ男子ノ曲線ヨリ遠ザカリレヨリ下降スルモノナリ、即チ滿十一年ヨリ大約十四年迄ハ明カニ其ノ女子曲線ガ下降スルヲミル、即チ身體及ビ記憶曲線ヨリモ約一ケ年以上早ク春情發動期ノ變動ヲ發見スルモノナリ。

以上ノ事實ヨリ要領ヲ擧グレバ
 (一) 身體發育ニ於テ表ハル、拾一年附近ニ於ケル發育遲鈍時期ハ聯想男子曲線ニ於テハ八年ヨリ十年頃ニ表ハレ、女子ニ於テハ稍不明ナリ。

(二) 女子ノ春情發動期ニ於ケル發育遲鈍ハ身體發育增加時期ヨリモ一年以上早ク其ノ終リハ大約十四年ナリ之又身體發育ニ於ケルモノヨリモ約一年早シ。

(三) 聯想發育ノ停止期ハ男子ハ拾七年年 女子ハ拾七、二年位ニ表ハルモノナラン、則チ體重發育停止期ト殆ド其ノ時期ヲ同ウシ身長頭圍發育停止期ヨリモ滿一ケ年早キガ如シ

第三 身體發育代表曲線ト注意發育代

表曲線ノ比較

ノ注意發育ノ最後ノ結果トナセリ、今左ニ最近發表セル五分間平均讀字數ト五分間平均ノ加算シタル計算字數及ビ其ノ平均數ヲ擧グ、但シ計算字數ト稱スルハ「クレベリン」ノナルシタル單位數字ノ五分間ノ和ニ非ズシテ五分間ニ幾回單位數字ヲ計算シタルヤノ意味ナリ、且ツ表ニ表シタル數ハ數字ノ計算回數ヲ十倍シタル數ナリ、其ノ理由ハ讀字數ガ最多ノ場合ニ於テハ千以上ニ達シ居ルヲ以テ同ジ價値ノ實驗ヲ平均スルニ當リ若シ計算字數其ノ儘ナレバ僅ニ十分ノ一ノ價値ヲ有スルニ過ギザルヲ以テ之レニテハ甚ダ不合理ナル結果ヲ生ズル恐レアルガ爲メニ拾倍シタルモノナリ、次ニ平均數ハ五分間平均讀字數ニ單位加算ノ回數(計算字數)ニ十倍シ兩者ヲ加ヘテ二分シタルモノナリ。

年 齡	讀 字 法		加 算 法		讀字法ト加算法ノ平均	
	男	女	男	女	男	女
尋常二年	七六三	七三三	三六	三二	八二二	八六六
尋常三年	八七九	八五〇	四三	三九	八六六	八六六
尋常四年	九七四	九三二	五〇	四六	九〇九	九〇九
尋常五年	一〇六九	一〇二七	五七	五三	一〇六六	一〇六六
尋常六年	一一六四	一一二二	六四	六〇	一一二八	一一二八
高等一年	一二五九	一二一七	七一	六七	一二二六	一二二六
高等二年	一三五四	一三一二	七八	七四	一三二二	一三二二

師範一年	一六三	一七〇	一七五	一八〇	一八五	一九〇	一九五	二〇〇	二〇五	二一〇	二一五	二二〇	二二五	二三〇	二三五	二四〇	二四五	二五〇	二五五	二六〇	二六五	二七〇	二七五	二八〇	二八五	二九〇	二九五	三〇〇	三〇五	三一〇	三一五	三二〇	三二五	三三〇	三三五	三四〇	三四五	三五〇	三五五	三六〇	三六五	三七〇	三七五	三八〇	三八五	三九〇	三九五	四〇〇	四〇五	四一〇	四一五	四二〇	四二五	四三〇	四三五	四四〇	四四五	四五〇	四五五	四六〇	四六五	四七〇	四七五	四八〇	四八五	四九〇	四九五	五〇〇	五〇五	五一〇	五一五	五二〇	五二五	五三〇	五三五	五四〇	五四五	五五〇	五五五	五六〇	五六五	五七〇	五七五	五八〇	五八五	五九〇	五九五	六〇〇	六〇五	六一〇	六一五	六二〇	六二五	六三〇	六三五	六四〇	六四五	六五〇	六五五	六六〇	六六五	六七〇	六七五	六八〇	六八五	六九〇	六九五	七〇〇	七〇五	七一〇	七一五	七二〇	七二五	七三〇	七三五	七四〇	七四五	七五〇	七五五	七六〇	七六五	七七〇	七七五	七八〇	七八五	七九〇	七九五	八〇〇	八〇五	八一〇	八一五	八二〇	八二五	八三〇	八三五	八四〇	八四五	八五〇	八五五	八六〇	八六五	八七〇	八七五	八八〇	八八五	八九〇	八九五	九〇〇	九〇五	九一〇	九一五	九二〇	九二五	九三〇	九三五	九四〇	九四五	九五〇	九五五	九六〇	九六五	九七〇	九七五	九八〇	九八五	九九〇	九九五	一〇〇〇
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

尋常一年ハ男女共加算ニ於テ本邦教育制度ニヨリ自由ニ加算ヲ行フ事能ハズ依テ止ヲ得ズ尋常二年ヨリ實驗セリ。

今男子發育曲線ノ形狀ヲ見ルニ八・一年ヨリ十年迄ハ急激ニ増進シ拾、拾一年ノ間ハ少シク増進遲鈍トナリ十一年、十二年間ハ又再ビ急ニ上昇ス、要スルニ八年ヨリ十二年ニ至ル迄ハ殆ド直線形ニ急激ニ發育ヲナシ、十二年ヨリ十四・二年附近ニ至ル迄ハ其ノ増加急ニ停止シ殆ド平坦ノ状態ヲナシ十五・十六年間ハ研究材料ナル生徒ヲ得ル事能ハザルヲ以テ其ノ發育程度ヲ實驗スルヲ能ハザリシモ十六・七年附近ニ於テハ前述十四年附近ノ發育程度ヨリモ遙ニ高ク上昇シ、十七年ノ末ニ至リ益々上昇シ、之ヨリ曲線ハ多少上進スレド殆ド發育ノ停止時期ト見做シ得可ク、滿十九年ヨリ二〇・三年ニ至ル迄ハ其ノ曲線ハ全ク平坦ニ走り漸ク停止ノ時期ニ達シタルモノト看做シ得可ク、即チ滿十九年ト二十年附近ガ最高点ニアリモノナリ。要スルニ十七年ノ末ニ於テ既ニ發育停止ノ前提ヲ表シ十九年ニ於テ全ク發育ガ停止スルモノナラン。女子ニ於テハ八三・年ヨリ十・一年迄ハ注意ノ發育程度一直線に急進シ、男子曲線ヨリ上ニ達シ十、十一年間ハ一時發育停止シ再ビ男子曲線ノ下ニ降り、十一、十二、十三年迄ハ多少上進ノ傾向アルモ男子ニ比スレバ甚シク低ク殆ド十年ヨリ十三年附近

近迄ハ發育ヲ停止セルモノ、如ク十四・一年ニ至リ再ビ急ニ上昇シ男子曲線以上ニ昇リ、十五・七年附近ニ於テハ注意ノ發育ハ男子ノ曲線ヨリ甚シク上昇シ十七年迄ハ一時停止スルモ十七、八年ノ間ニ於テ再ヒ急激ノ上昇ヲナシ無論男子ノ注意發育價值以上ニ於テ最高点ニ達シ十九年附近ニ於テ再ビ低ク、即チ女子ノ發育ハ滿十八年ニ於テ最高点ニ達スルモノト見做シ得ベク、十年ヨリ十三年附近迄ハ春情發動期ニ於ケル注意發育停止時期ト見做シ得可ク、男子ノ發育程度ヨリ遙ニ低劣ナレドモ十四年以後ニ於テハ男子ヨリモ其ノ注意ノ價值ハ甚大ナリ、且ツ十年前以前ニ於テハ男子ノ注意價值ヨリモ少シク劣レルガ如シ。

以上述べタル注意發育曲線ト身体代表曲線ト比較スルニ先ツ男子兩曲線ニ於テハ身体曲線ニ於ケル九年半ヨリ十一年半ニ至ル發育遲鈍ノ部分ハ此注意曲線ニ於テハ僅ニ十年十一年ノ間ニ表レ十二年以後後身體曲線ガ類ニ上昇スルニ反シテ注意曲線ハ十二年ヨリ十四年過ギ迄甚ダ除々タル發育ヲナス、然レドモ身體曲線ニ於テハ十三年半ヨリ十四年半ニ至ル迄發育少シク遲鈍トナル場合アリ其ノ場合ガ注意ノ曲線ニ於テ十二年ヨリ十四年附近迄連續スルモノト解釋スレバ或ハ多少近似ノ点ヲ發見スルヲ得ベシ、注意曲線ニ於ケル十七年末ノ上昇

ハ頭圍曲線ノ十八年半 停止期ニ相當スベク即チ大約曲線ノ特色ガ假令其 形状ニ於テ異ナル点アルモ兩曲線共共通ナルガ故ニ其 發育停止 年齡ガ身體曲線ニ於テハ十八年半ナルモノト見テ可ナラン、然レドモ最モ完全ヲ望メバ注意ハ滿十九年ニ於テ發育停止ス。女子曲線ニ於テハ身體曲線ノ八年半ヨリ十年半ニ至ル間ノ發育遲鈍ノ時期ハ注意曲線ニ於テハ少シモ之レヲ認メルヲ能ハズ寧ろ此年齡時期ガ最モ急激ナル發育ヲナス時代ニシテ十一年頃ヨリ十三年ノ半バ位迄ハ既ニ春情發動期ニ於ケル時期ト見做シ得ヘク、之レニ反シテ身體曲線ニ於テハ十二年半ヨリ十五年ニ至ル間ガ急激、發育ヲナスモノナリ、即チ注意發育ニ於ケル女子ノ春情發動期、發育停止時期ハ大約十一年ヨリ十三年半バ位ニ相當シ身體ノ同期ニアリ身體急進發育時期ヨリ約一ケ年餘リ早く現出スルモノナリ且ツ注意曲線カ十四年以上十五年頃迄、及ヒ十年附近ニ於テ男子ヨリ優良ナルヲ及ヒ身體ノ女子春情期ニ於ケル注意發育ノ遲滯及ヒ男子ヨリ劣ル點ニ於テハ頭圍曲線ト正反對ノ結果ヲナス、然レトモ全體ノ曲線ノ特色ハ年齡ノ時期ニ依テ差異アレトモ略共通ナルモノナリ。

以上ノ兩曲線ノ比較ニ於テ次ノ要領ヲ得タリ。

(一)、身體曲線ト形狀ヲ異ニスレトモ曲線ノ經過ニ於テ特色トスル點ハ男女注意曲線ト時期ヲ異ニスレ共略共通ナリ。

(二)、男子ノ注意發育停止期ハ大略十七年末ニ於テ表ハレ十九年ヨリ完全ナル停止ヲ表ス。

(三)、男子ノ注意ハ八年頃ヨリ十二年迄ハ急激ノ發育ヲナセマ

モ十二年ヨリ十四年迄ハ遲鈍トナル。

(四)、女子ノ注意發育ハ八年附近ヨリ十年附近迄ハ急激ノ上昇ヲナシ一時男子ヲ凌駕スルモ十一年ヨリ十三年附近迄ハ發育停止ヲナシ身體急激發育(春情期)ヨリモ約一年以上早く春情期ノ變動ヲ認ム。

(五)、女子注意曲線ハ十四年以後ハ男子ヲ凌駕シ身體曲線ノ女子カ男子ヨリモ益々低劣且ツ遠隔スルヲト全ク相反ス。

(六)、女子ノ完全ナル注意發育停止期ハ十八年附近ニアリ即チ男子ヨリ一ケ年早く現出ス。

(七)、次ニ記憶曲線ト比較スルニ曲線ノ形狀トハ頗ル近似スル點アリ記憶曲線カ九年頃迄ニ於テ急激ノ上昇ヲナス状態ハ注意曲線ニ於テモ亦十年附近ニ於ケル迄相一致シ(男女共)記憶曲線ニ於テハ十年ヨリ十三年半附近迄ハ女子男子ヨリ優良ナルニ反シ注意曲線ハ男子ヨリモ劣等ナル點ハ一ツノ注意スヘキ点ニシテ注意カ劣等ナルニ拘ラス記憶カ好良ナルト云フ一種ノ矛盾ヲ生シタリ、其ノ理由ハ明カニ辯明スルヲ能ハザレトモ實驗方法ニ於テ若シ記憶實驗カ女子兒童ニ有利ニシテ男子ニ不利ナル点アランカ、又ハ自然的ニ女子カ男子ヨリモ記憶術ニ於テ長スルヲナルヤハ此處ニ明言スルヲ能ハス、要スルニ注意、記憶ノ實驗方法カ全ク同方法ヲ用ヒテ測定スルヲ不可能ナル状態ナルヲ以テ斯ノ如キ矛盾ヲ生セシモノナラン、且ツ春情期ニ於ケル女子ノ低落モ兩曲線ニ於テ一ケ年以上注意ノ方早く現出ス。

第四 身体代表曲線ト感情代表曲線トノ比較

此ノ感情曲線ト稱スルハ聯想發育實驗中ニ表ハレタル處ノ感情ニ關スル反應語種ノ現出度數ヲ以テ一ツノ曲線ヲ描キタルモノニシテ從テ感情特種ノ實驗方法ヲ行ヒ以テ得タル確實ナル成績トハ大イニ趣ヲ異ニシ其ノ價值ニ於テモ亦多少疑ハシキモノナレトモ感情發育ニ關スル實驗報告カ同時代ニ於テ皆無ナル以上ハ若シ強テ精神ト稱スル複雑ナル現象ヲ研究セントスルニ當リ只智慧方面ニ於ケル研究ノミヲ平均シテ論スルハ或ハ當ヲ得サル事ヲ慮リ不確實ナル成績ト認メナカラ此處ニ之レヲ擧ケタリ、其ノ曲線ノ形狀ニ於テハ年齡ニヨリテ多少上昇スル傾向アレトモ、男子ニ於テハ十一年及ヒ十五年附近ニ於ケル甚シキ上昇アリ其ノ他ハ殆ト平坦ナル一直線ニ過キサルヲ以テ身体代表曲線ト如何ニシテモ類似ノ点ヲ發見スルヲ能ハス、只身体曲線ノ十五年半頃 於ケル僅少ノ上昇ト感情曲線ノ同年ニアル高點トガ多少特色ヲ同シクスル外ハ一ツトシテ比較スルヲ能ハス、次ニ女子ノ曲線ニ於テハ十二年附近ヨリ漸々高マリ十五年ニ於テ最高點ニ達スルヲハ恰モ身体曲線ノ春情期ニ於ケル隆起ト一致スルヲ、夫レヨリ以外ニテハ殆ト其ノ比較ニ苦シムモノナルカ故ニ只一ツノ精神分科ナル感情ト稱スル一ツ實驗結果ヲ擧クルニ止マレリ、故ニ最後ニ於ケル精神及ヒ身体ノ總括論ニ於ケル時、其ノ平均方法トシテ他ノ實驗價值ノ十分ノ一ノ價值ニ止メタリ。

五、身体代表曲線ト能率發育曲線トノ比較

此ノ能率曲線ハ「ブールドン」ノ無意味ノ四名列ヲ讀マシメ一日約十分間ノ作業ヲ約十日間連續的ニ實驗シ其ノ十日間ノ一

- (一) 男子曲線ハ八年ヨリ九年半迄ハ急激ノ上昇ヲナスコト身體曲線ニ一致ス其ノ他十一、十二、十三、十四ノ四點ハ曲線甚ダ不規則ニシテ一定ノ結果ヲ得ルヲ能ハズ。
- (二) 男子ノ發育停止期ハ約十七年ニ相當ス、女子ニ於テハ八年ヨリ十年迄ハ急激ノ上昇ヲナシ十一、十二、十三、十四ノ四ケ年ニ於テ甚ダ遲鈍トナルコトハ身體曲線ノ變動ヨリ約一ケ年早シ。
- (三) 十四・三年以上ノ年齡ニ於テハ女子ノ曲線ハ男子ヨリモ非常ニ高ク即チ男子ヨリモ極メテ大ナル能力ヲ有ス。
- (四) 女子ノ發育停止ハ既ニ十六・七年ナルモ若シ最高能率ヲ停止期ト見做セバ十七・八年ナリ。
- (五) 春情期ニ於ケル女子低落ハ能率曲線ニハ發見シ得ズ。

第三章 前章ノ總括論

前章第一ヨリ第五迄ハ精神各部ノ發育曲線ト身體代表曲線トヲ一ツツ比較研究シタルモノナレドモ、今精神ト稱スル複雑ナル機能ト身體發育トヲ比較スルニ當ツテハ前記ノ如ク部分的比較ヲ以テ満足スルヲ能ハズ、故ニ余ハ可及的精神各部分ノ發育研究結果ヲ綜合シ以テ身體發育ノ狀態ト比較セントス。

其ノ精神各部分ノ綜合方法ニ就テハ實ニ至難中ノ至難ニシテ到底満足ナル結果ニ到着スルヲ不可能ナレドモ若シ精神ト稱スル一ツノ複雑現象ヲ通俗心理學ノ説クガ如ク智情意ノ三要素ヨリ成立スルモノトスレバ余ハ既ニ主トシテ智界ノ研究ヲ

級平均ヲ以テ曲線ヲ作リタルモノニシテ其ノ詳細ハ既ニ小中學生徒精神發育研究第四回報告トシテ日本心理學雜誌第一卷三號ニ掲載セラレ又、文部省提出他日官報ヲ以テ發表セラルベキ豫定ナルヲ以テ此處ニ之レヲ省略スルモ大体ニ就テ少シク述ベンニ、七年ノ頃ハ結果極メテ不明ナレドモ八年ヨリ十年頃迄ハ男女共急激ニ上進シ、十年ヨリ十二年迄ハ其ノ發育少シク徐々トナリ、男子ニ於テハ十三年ト十四年附近ニ於テ一時非常ニ低落シ、十七年ヨリ十九年迄ハ曲線形狀全ク一直線ニシテ最早少シモ發育セザル程度ニアリ、即チ男子ニ於テハ讀字法ヲ用ヒタル結果ニ依レバ最早滿十七年ニ於テ其ノ發育ガ停止セリ、且ツ全体ノ曲線ノ形狀ハ注意及ビ短期能率ヲ「ブールドン」ノ讀字法ヲ用ヒテ研究シタル曲線ト甚ダ類似ス（身体代表曲線ト注意代表曲線トノ比較ノ章内ノ表ヲ參照）。

女子曲線ノ性質モ亦注意發育曲線ト全ク同一ナル形狀ヲ有シ只讀字數ガ年齢ヲ重ネルニ從ヒ極メテ多數ノ讀字數ヲ表シ既ニ九年以後ニ於テハ全ク男子ヨリモ能力高ク殊ニ十四、十六、十七年ノ三點ハ男子ヨリモ甚ダ高ク十七年ノ如キハ男子ノ約二倍ニ達ス、換言スレバ此ノ讀字法ヲ用ヒタル實驗ニテハ女子ノ能率ハ男子ヨリモ甚ダ良好ナル結果ヲ表ス、今身體曲線ト比較センニ七年ヨリ九年半迄ハ身體曲線ノ上昇ニ相當スル急激ノ上昇ハ能率曲線ニ於テハ約半年遅ク即チ十年迄繼續シ、九年半ヨリ十一年半迄ノ停止期ハ能率曲線ニモ表ハレ其後男子ニ於ケル發育停止期ハ十七年ニシテ身體曲線ヨリモ一年半早ク注意曲線ノ停止期ヨリモ半年以上早ク略記憶曲線ノ停止期ト一致ス。女子ノ發育停止期ハ約十七年年ニ相當スルヲ以

終リ即チ記憶、聯想、注意及ビ能率、發育研究ト聯想實驗中ニ得タル感情方面ノ反應語種ノ研究トノ諸研究ニヨリ智情ノ發育ニ關シテ多少得ル處アリタルヲ以テ此處ニ精神發育ト身體發育トヲ總括スルニ當リ先ヅ余ノ諸結果ヲ以テ身體代表曲線ト比較セントス、蓋シ以上智情ノ二要素ノミニテハ意志ヲ欠除スルガ故ニ未ダ完全ナル精神ト云フヲ得ザレドモ「ウント」ノ綜合心理學ニ依レバ意志ノ動機ハ感情ト觀念トヨリ成立スルモノニシテ内意志ガ注意ナリト稱スル定則ニヨリ余ハ先ニ内意志ナル注意及ビ其ノ動機ニ關シテ發育研究ヲモ此ノ總括論中ニ存在スルノミナラズ外意志行爲ナル短、長期能率實驗結果モ既ニ其ノ論文中ニ存在スルヲ以テ意志發育研究ハ假令不完全トスルモ存在スルガ故ニ此ノ總括論ニ於テハ正ニ智情意ノ三要素ヲ具有スルモノト見做シ得。然レドモ只惜ムラクハ感情ノ發育研究ガ不完全ナル恐アリ、既ニ第四ノ條下ニ於テ自己ノ欠點ヲ告白シタリ、此ノ不完全ニ對シテハ他日感情ニ關スル直接實驗ヲ以テ補ハンコトヲ期ス。

第一 注意記憶平均曲線ニ就キテ

今余ハ各部ノ發育結果ヲ平均シテ茲ニ一ツ精神發育曲線ト稱スル曲線ヲ製作シ之レヲ以テ身體代表曲線ト比較セントス、然レドモ其ノ平均法ノ困難ナルハ精神各部ノ實驗方法ノ異レルヲ、實驗期日ノ異ナレルヲ及ビ材料ノ異ナレルヲノ三點ハ平均結果ノ價值ヲ低落セシムル事項ナリ、然レドモ同一ノ方法材料同時期ニ於テ余ノナセルガ如キ多數ノ材料及ビ多數ノ實驗ハ何人ニ於テモ全ク不可能ナルガ故ニ上記ノ欠點ハ蓋

シ避クベカラザル欠点ト見做シ得ルモノナリ、今假リニ各部
曲線中最モ近似セル曲線ヲ選ビ平均ヲ試ミタルニ記憶ト注意
發育曲線トガ甚ダ形状ニ於テ近似スルガ故ニ此ノ兩曲線ノ平
均ヲ試ミニ製作セリ。

其ノ曲線ハ第二表及ビ第二圖ノ記憶ト注意トノ平均曲線トヲ
参照セヨ。

注意實驗ガ尋常一年ニ於テ生徒ノ學術程度ガ其ノ實驗方法ニ
適セザルガ爲メ第二年ヨリ測定セルヲ以テ其ノ平均トシテハ
記憶ニ於テモ尋常二年ヨリ採用セリ、即チ男子ノ平均年齢ハ
八・〇九年ニシテ曲線ハ之ヨリ始マリ一〇・一年ニ至ル迄一直
線ニ甚ダ急激ニ増進シ、一〇・一年ト一二年迄ハ身体曲線
ノ發育遲鈍期ト一致シテ發育遲鈍トナリ夫レヨリ又一二・二
年ニ至ル迄ハ急激ニ上昇シ、三・二年迄ハ再ビ遲鈍トナリ、
一四・一年迄ハ又多少上昇シ一七・五年迄漸次上昇シ、夫レヨ
リ以上ノ年齢ニ於テハ上昇スルヲ甚ダ遲鈍トナリ、一九・一年
乃至二〇・三年ニ至ル迄ハ殆ド停止ノ状態ナリ。女子ニ於テ
ハ八・二年ヨリ十年ニ至ル迄ハ急激ニ上昇シ而モ九年附近ニ
於テ男子線ヨリ上ニ昇リ一二年迄ハ發育遲鈍トナリ、一
一・二年附近ニ於テ男子曲線ト交叉シ男子ヨリモ下ニ走リ一
二年ハ多少上昇スルモ男子曲線ニ及バズ一三・二年ニ於テハ
曲線一時下落シ益々男子曲線ト遠ザカリ一四・二年ニ於テ急
ニ上昇シ男子曲線ノ高サニ達シ、之レヨリ男子曲線ヲ凌駕シ
一六年ニ至リ男子ヨリ甚ダ高ク一八・四年ニ於テ頂点ニ達シ
一九・二年ハ其ノ曲線下落ス即チ女子ノ發育ノ頂点ハ一八・四
年ニ相當ス。

今身体代表曲線ト比較スルニ男女共八年附近ヨリ一〇年附近
ニ至ル急激ノ上昇ハ身体ノ曲線トヨク一致シ、一〇年一一年
附近ノ發育遲鈍モ亦身体曲線ト一致スレドモ比較的短キ期限
ニ表ハレ女子春情期ニ於ケル低落ハ殆ド身体曲線ノ同年期間
ニ於テ身体曲線ヨリ約滿一年以前ニ表ハレ、男子ノ身体發育
停止期ハ一八・五年ナルモ此ノ精神平均曲線ニ於テハ略一七・
五年ニ表ハレ確實ニハ一九・一年ニ停止ス。女子ノ身体發育
停止期ハ一八年ナルモ精神發育ニ於テハ確實ニ一八・四年ナ
リ。

第二 記憶、聯想、注意、平均曲線ニ就テ

此ノ平均曲線ハ聯想ノ曲線中女子尋常四年ニ於テ其ノ曲線ガ
非常ニ暴落スルガ爲メ男子ハ女子ノ曲線ノ上ニアリテ前ノ記
憶注意曲線ノ如ク女子男子ヨリ優勢ナラズ、一・五年ニ於
ケル女子ノ曲線モ亦男子ヨリ下ニアリ、一・二・五及ビ一・三・五
年ノ春情期低落ハ記、注兩曲線ト同様ナリ、且ツ一六年以上
ノ年齢ニ於テ記、注曲線ヨリモ女子ノ曲線ガ男子ノ曲線ニ接
近シ又、女子ガ男子ヨリ優勢ナルコトハ前曲線ト同様ナリ、
男女共八・九、一〇・五年附近迄ハ急激ニ上昇スルコト一〇・五
年ヨリ一・五年附近頃ハ發育男女共遲鈍トナリ、一・五年
ヨリ一・五年頃迄ハ女子ハ男子ニ及バザレドモ(春情期ノタ
メ)再ビ急激ノ上昇ヲナシ、一・二・五年ヨリ一・三・五年頃迄ハ
再ビ遲鈍トナリ、一四・五年ニ至ル間ハ男子ハ發育遲鈍、女
子ノミハ再ビ急激ノ上昇ヲナシ大略此ノ点ニ於テ男子線ト交
又シ一六年迄ハ女子ハ急激ノ發育ヲ續行シ此處ニ女子ハ大略

ノ發育停止期ヲ生ズレドモ一八・四年迄ハ徐々トシテ上昇シ
一九・二年ハ再ビ下降ス。男子曲線ハ一四・五年迄ハ既ニ前述
セリ、夫レヨリ以後ハ大ナル差ニアラザレドモ常ニ女子ノ下
ニアリテ且ツ、一六・八年以上ノ年齢ハ二〇・二年ニ至ル迄最
早少シモ曲線ハ上昇セズ一直線ニ並行シテ走ルモノナ
リ。即チ男子ノ發育停止期ハ此ノ記、注、聯平均曲線ニ於テ
ハ一六・八年即チ一七年附近ニ於テ全ク發育停止スルモノナ
リ、之レヲ女子發育停止期ト比較スレバ約一〇・八年ダケ男子
ハ遲ク發育ス。

男女ノ曲線ノ形状殊ニ男子ニアツテハ記憶曲線ノ形状ニ酷似
スルモノナリ、即チ一個ノ對數曲線ノ形状ヲトリツ、發育ス
ルモノナラン其ノ對數曲線ノ數學式ハ他日之ヲ發表セン。
今身体曲線ト此ノ曲線トヲ比較セントス、男子ニ於ケル身体
發育停止(九・五年ヨリ一・五年)ハ記、注、聯平均曲線ニ
於テハ僅ニ一〇・五年ヨリ一・五年位迄短期ニ表ハレ、一
三・五年ヨリ一四・五年ニ至ル身體發育遲鈍期ハ大略一致シ、
次ニ身體ニ於テ一八・五年ニ表ハルベキ發育停止期ハ此ノ曲
線ニ於テハ一六・八年ニ表ハル、次ニ女子精神發育曲線ハ八・
五年ヨリ一〇・五年ニ表ハルベキ身體發育遲鈍期一〇・二年ヨ
リ一・五年ニ表ハレ、次デ身體曲線ニ於テ一〇・五年ヨリ一
二・五年ニ表ハルベキ上昇ハ精神曲線ニ於テハ一・五年ヨリ
一・二・五年ニ至ル。一三年、一四年、一五年ニ至ル女子ノ大
上昇ハ精神曲線ニ於テハ反對ニ遲鈍トナリ、一・二・五年ヨリ
一・三・五年ニ至ル間ハ特ニ男子ヨリ劣ル、女子ノ身體發育停
止期一八年ハ精神發育曲線ニ於テハ一六年ニ表ハレ、曲線ノ

最高点ヲ完全ノ停止期ト看做セバ一八・四年トスルコトヲ得、
(以上此ノ第二條下ニアル表ト曲線ハ第二表及ビ第二圖中記
注、聯平均曲線ヲ参照スベシ)

第三 記憶、聯想、注意、感情平均曲線ニ就テ

此ノ平均曲線ハ前二曲線ヨリモ感情曲線ヲ加ヘタルモノニシ
テ、精神ノ各部ヲ最モ多ク含有シ最モ理想トスル處ノ曲線ナ
リ。
先ツ男子曲線ヨリ述ベニ、八・五年ヨリ一〇・五年ニ至ル間
ハ急激ニ發育シ、同年ヨリ一・五年迄ハ發育全ク停止シ、
同年ヨリ一・二・六年迄ハ再ビ急激ニ發育シ、同年ヨリ一・三・五
年迄ハ發育遲鈍トナリ、同年ヨリ一四・八年迄ハ多少急激ニ
昇リ、同年ヨリ一七年迄ハ再ビ遲鈍トナリ、同年ヨリ一七・
九年迄ハ益々遲鈍ノ發育ヲナシ、同年ヨリ一〇・一年ニ至ル
迄ハ殆ド一直線ヲ以テ發育全ク停止ス、即チ全平均精神曲線
ハ男子ハ一七・九年ニ於テ完全ニ發育停止ヲナスモノナリ、
男子曲線ノ全体ノ形状ヲ見ルニ實ニ整然トシテ一定規則内ニ
アル曲線ノ形状ヲ表スモノニシテ其ノ曲線ノ形状ハ正ニ數學
的對數曲線ノ形状ヲナシ年少ノ時代ニハ急激ニ上昇シ年ヲ重
スルニ從ヒ漸次發育遲鈍トナリ一七・九年ニ至テ全ク軸ト
殆ド完全ニ並行スル處ノ吾人ノ理想ニ甚ダ近キ曲線ナリ(但
シ數學式ノ發表ハ他日ニ讓ル)

女子ノ曲線ハ八・七年ヨリ九・五年迄ハ急激ニ上昇シ殆ド男子
ノ曲線ト同所ニ發育スルモ一〇・五年ノ一点ガ聯想曲線尋常
四年ノ暴落ノ影響ヲ受ケ他ノ二平均曲線ト同ジク男子ノ曲線

ト同走スベキ筈ナルモ一方ニ於テ男子曲線ガ感情曲線ノ影響ヲ受ケ(一〇・五年)少シク上昇セルニヨリ同年ノ男女ノ差ハ頗ル大トナリ女子四〇ダケ低シ、一・六年ニ於テハ男子ノ点ト殆ド相一致シ即チ吾人ノ理想ニ於ハ八・七年ヨリ一〇・五年迄ハ女子曲線ガ急ニ上昇シ、同年ヨリ一・六年迄ハ少年少クトモ遲鈍ナルベキモノナレモ一〇・五年ノ低落ニヨリテ少シク理想ヨリ遠ザカレリ、一・七年及一・三・七年ハ春情期ト見做スベキ殆ド總テ女子曲線ニ表ハル、發育遲鈍時期ニ移リ此ノ間常ニ男子發育程度ヨリモ低ク、同年ヨリ一・四・七年ニ至リ女子曲線ハ甚シク男子ニ近付キ遂ニ、一・六年ニ至リ男子曲線ヨリ上ニ昇ル、男女線ノ交叉点ハ大約一・五・二年ニアリ、一・七・二年ニ至ル迄ハ徐々トシテ發育シ再ビ一・八・四年ニ至リ頂点ニ達シ、一・九・二年ハ再ビ下降シテ一・七年ノ程度ニ達ス、全体ノ曲線形状ハ一〇・五年迄ハ一直線ニ昇リ夫レヨリ一・三、一・四年ノ低落ガ存在スルヲ殆ド直線ノ形状ヲナシテ一・八・四年迄上昇スル處ノ直線ニ近キ形状ヲ有ス、且ツ一・六年以上ノ年齢ニ於テハ悉ク男子ヨリモ優秀ナリ。次ニ身体曲線ト比較センニ女子ニ於テハ身体曲線ノ八・五年ヨリ一〇・五年迄ニ至ル發育遲鈍ハ精神曲線ニ於テハ一〇・五年ヨリ一・一・六年ニ表ハレ、身体發育上ニアル一・三年ヨリ一・五年迄ノ春情急發育時期ハ、精神發育ニ於テハ約一ケ年早ク表ハル、身體發育停止期ハ一・八年ニシテ女子精神發育停止期ハ其ノ最高点ナル一・八・四年ナルモ總テ女子ノ發育停止ハ男子ヨリモ大約一ケ年ハ早キガ故ニ此ノ場合ニ於テモ一・七年附近ノ上昇点ガ停止時期ト見做シ得ベキモノナリ。

男子ニ於テハ身體發育曲線中ノ約九・五年ヨリ一・一・五年迄ノ發育遲鈍ハ精神發育曲線ニ於テハ一〇年ヨリ一・一・五年ノ一ケ年ニ表ハレ、身體曲線ハ其後ノ年齢ニ於テ殆ド直線ヲナシテ上昇スルモ、精神曲線ハ一ツノ對數曲線ノ一部分ノ形状ヲ以テ發育シ、一・八・五年ニアル身體發育停止期ハ精神曲線ニ於テハ一〇・七年ダケ早ク表ハレ即チ一・七・八年ニ表ハル。以上ノ事實ヨリ要領ヲ擧グレバ左ノ如シ。

(一) 男子ノ精神發育曲線ハ理想的發育曲線即チ對數曲線ノ形状ニ酷似ス。

(二) 一〇年、一一年附近ニアル身體發育遲鈍期ハ精神曲線ニ於テハ僅カ一ケ年ニ表ハル、且ツ男女共ニ其ノ傾向アリ。

(三) 身體發育曲線ハ男子ニ於テハ一・一・五年ヨリ一・八・五年迄殆ド一直線ニ上昇スルモ男子精神曲線ハ對數曲線ノ一部分ニ酷似スル曲線ヲ以テ一・七・八年迄發育上昇ス。

(四) 身體發育停止ハ男子ハ大畧一・八・五年ナルモ精神發育停止ハ一・七・八年

附近ニアリ。

- (五) 男女共精神發育ハ八年ヨリ一〇年迄ハ甚ダ急進ス。
- (六) 女子ノ春情期ガ精神發育ニ影響スル一ハ大略一・二・五年ヨリ一・三・五年附近頃迄著明ナリ、且ツ此ノ時代ハ女子ノ發育ハ男子ニ及バス。
- (七) 女子精神春情期變動ハ身體發育變動ヨリモ約一ケ年早シ
- (八) 女子精神發達ニ於テ一・六年以上ハ男子ノ發育ヨリモ少シク大ナリ。
- (九) 女子ノ精神發育停止ハ其ノ身體發育停止期(約一・八年)ヨリモ約一ケ年早ク即チ一・七年頃ニアリ。
- (十) 女子ノ精神發育曲線形状ハ殆ド三個ノ直線ヨリ成立ス、八年ヨリ一〇・五年迄一ツ直線、一〇・五年ヨリ一・八・五年迄一ツ直線、一・八・五年ヨリ一

九・二年迄短キ直線ナリ。

- (一) 現今法律ニ於ケル責任能力ニ關スル法令ノ改正ナリ、蓋シ身體及ヒ精神ノ發育停止時期カ此ノ研究ニヨリテ決定シタル以上ハ從來ノ滿二十年ヲ以テ丁年トスル必要少シモナキガ如シ。
- (二) 二十年ヲ以テ丁年トスルヨリ余ノ研究結果タル男子身體發育停止期十八年及ヒ精神發育停止期十七・八年ニ改正スレハ有爲ノ壯年期間ヲ少ナクトモ一ケ年半以上延長シ得ルモノ

以上ノ本論文結果ヲ見ルニ八年ヨリ約二〇年迄ノ精神發育結果ハ大略得知シタルヲ以テ其ノ結果ヲ一般ニ應用スレバ多少社會ヲ裨益スル處アラン今其ノ結果ヲ應用スル範圍ハ余ノ淺薄ナル智識ヲ以テ考フレバ大略左ノ如シ。

ニシテ國家ノ經濟上幾何ノ影響アルヤ。

(三) 幼年法ニ關シ余ノ研究結果ハ多大ノ影響ヲ及ホス。

(四) 徵兵適齡ノ改正、滿二十年ヲ以テ適齡トスルヨリ少クモ十八年半トスル

方兵員ノ増加及ヒ兵士ノ衛生狀態ニ好良ナル影響ヲ及ホス(一種ノ兵士花柳病減少策)

(五) 丁年期ヲ十八年半以前ニスレハ現今普通及ヒ高等普通學規定制度ノ改正ヲ要スルヲ。

(六) 各年齡ニ於ケル精神發育ノ狀態ヲ詳ニシ得タルヲ以テ其ノ結果ニ適應シタル完全ナル教育方法ヲ施スコトヲ得。

(七) 女子ノ精神發育程度カ十六年以後ニ於テハ男子ヨリ同等以上ナルヲ以テ

目下問題タル女子高等教育ニ關シ唯一ノ材料トナル

(八) 余カ研究シタル發育狀態ヲ應用スレハ少クトモ學校衛生又ハ一般衛生上大ナル資料トナル。

明治四十三年ヨリ、七年ヨリ二十年ニ至ル精神發育研究ヲ始メ大正九年三月二十五日ヲ以テ全部研究ヲ終リタリ、其ノ間滿十ク年ヲ越ユ、只餘ス處ハ精密ナル同年内ノ生徒ノ感情發育實驗研究ナリ、此ノ研究ハ精密ナル實驗機械ト多大ノ日數ト費用ヲ要スルヲナルヲ以テ他日其ノ成績ヲ發表シ得レバ幸ナリ。

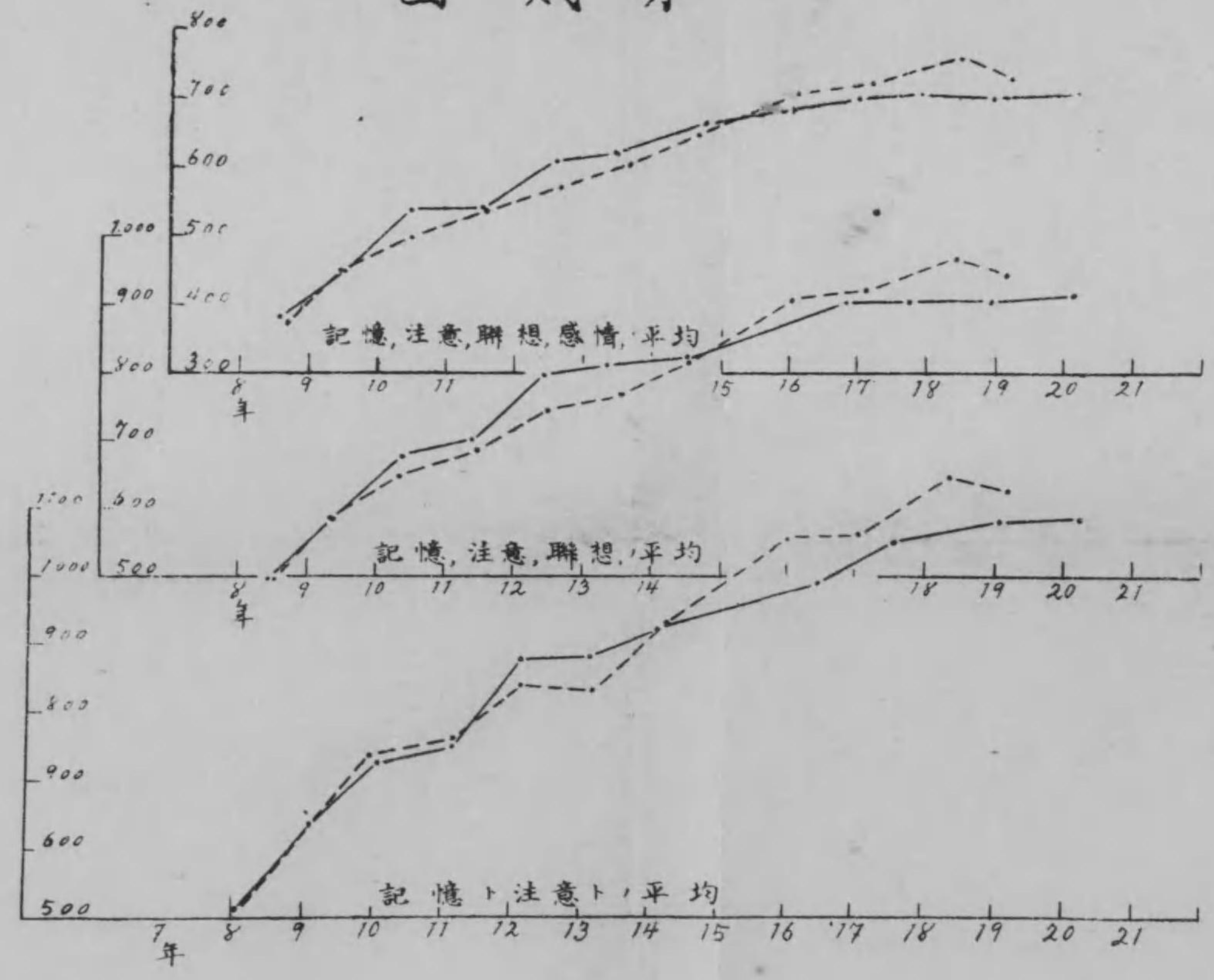
完 成

大正九年三月二十五日

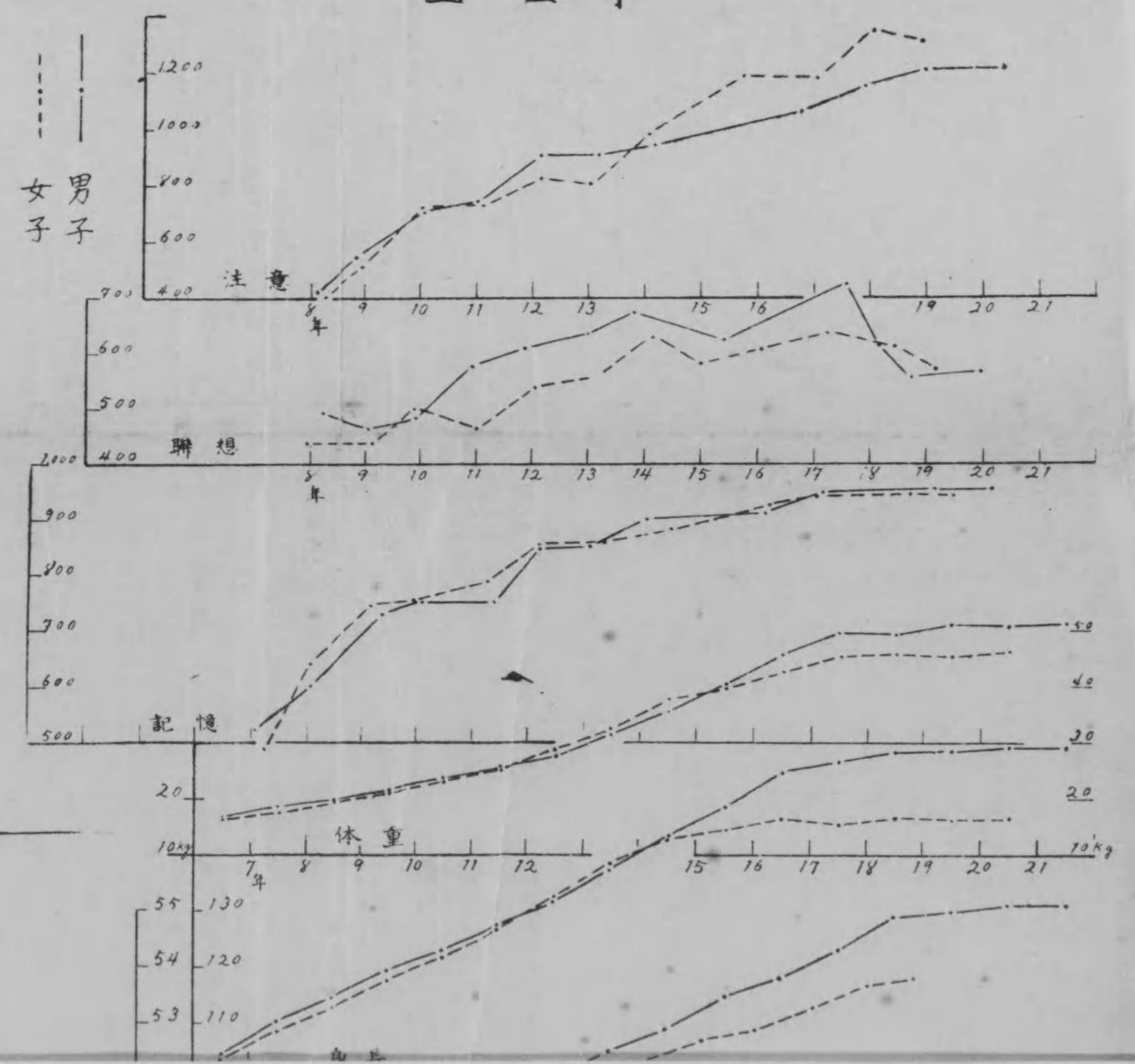
第二表

頭 年齡 六七年 七八 八九

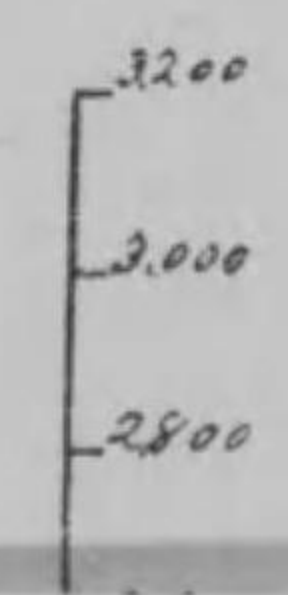
圖貳第

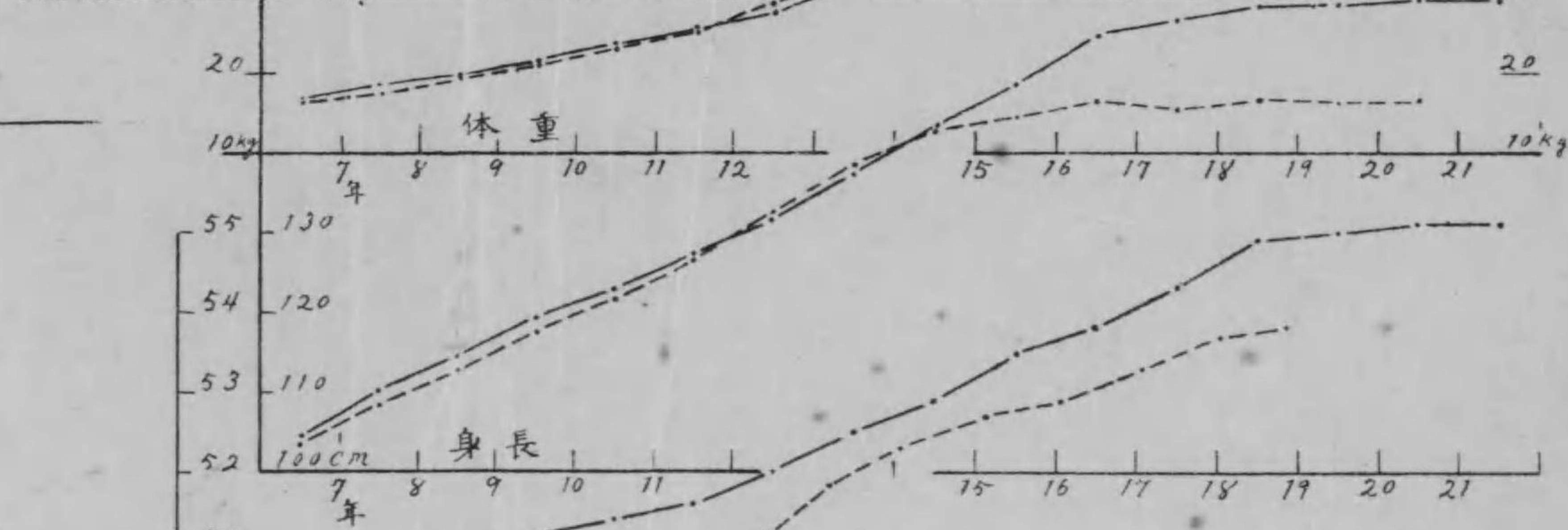
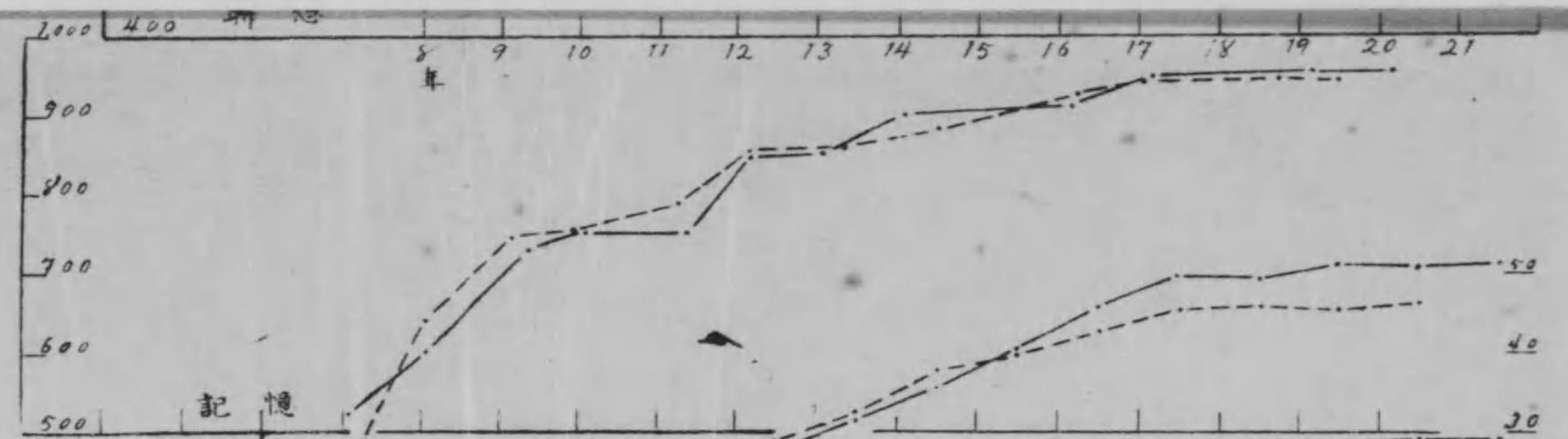
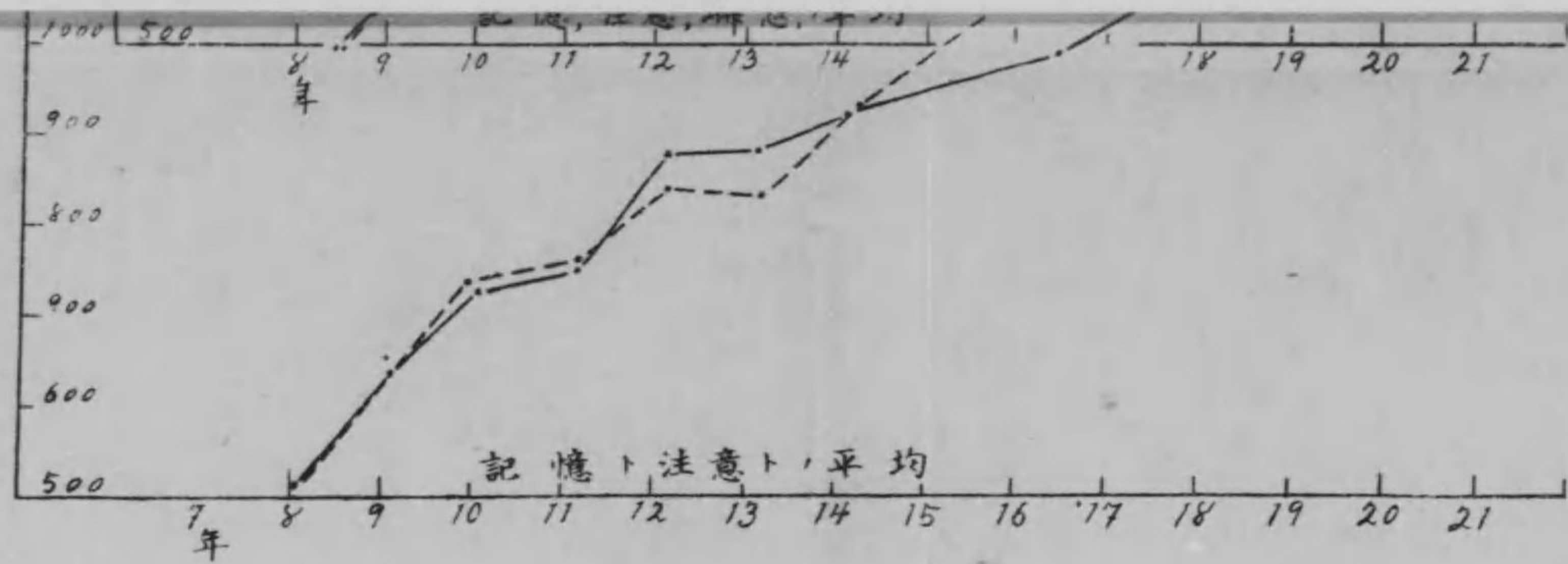


圖壹第

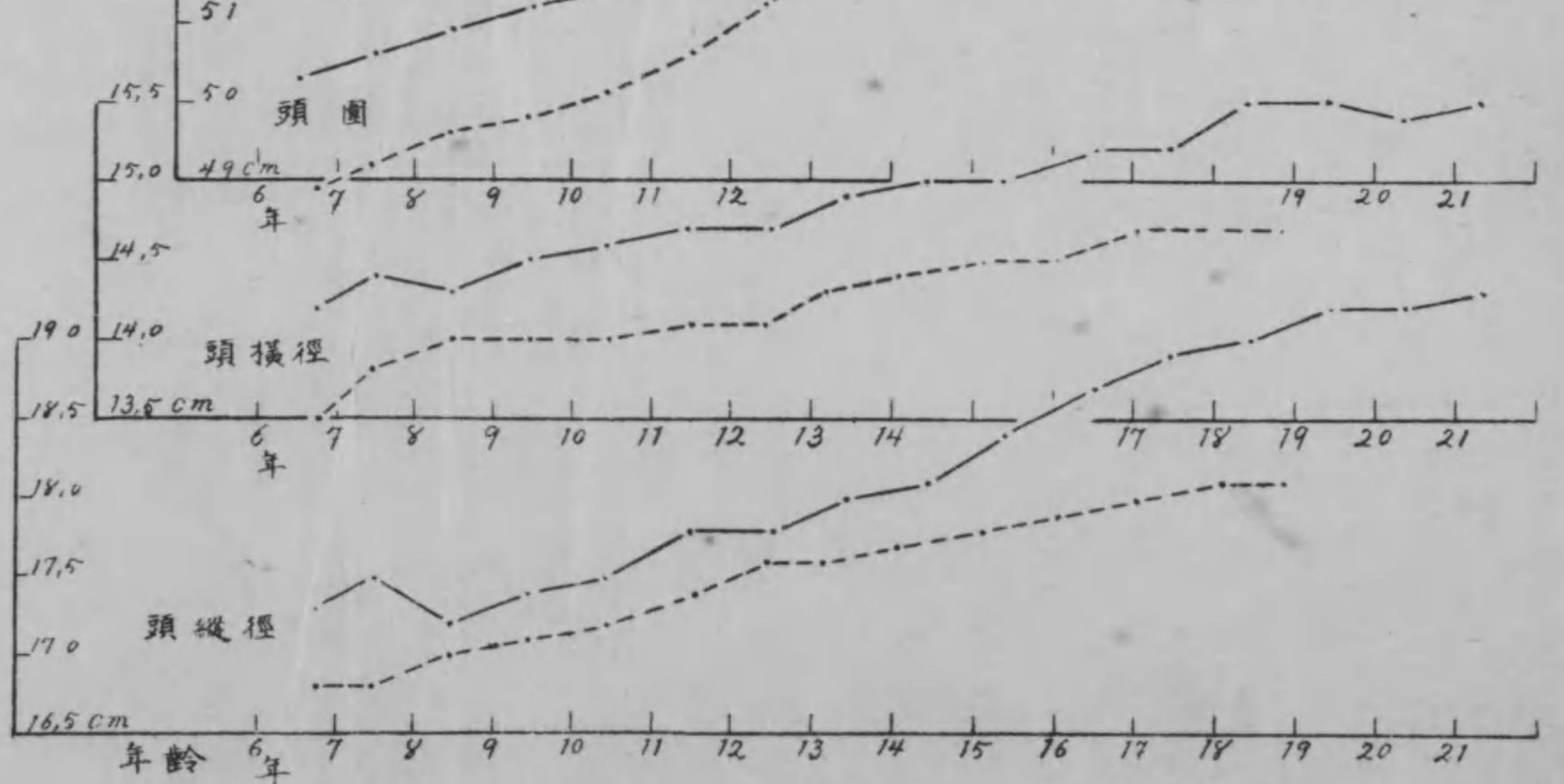
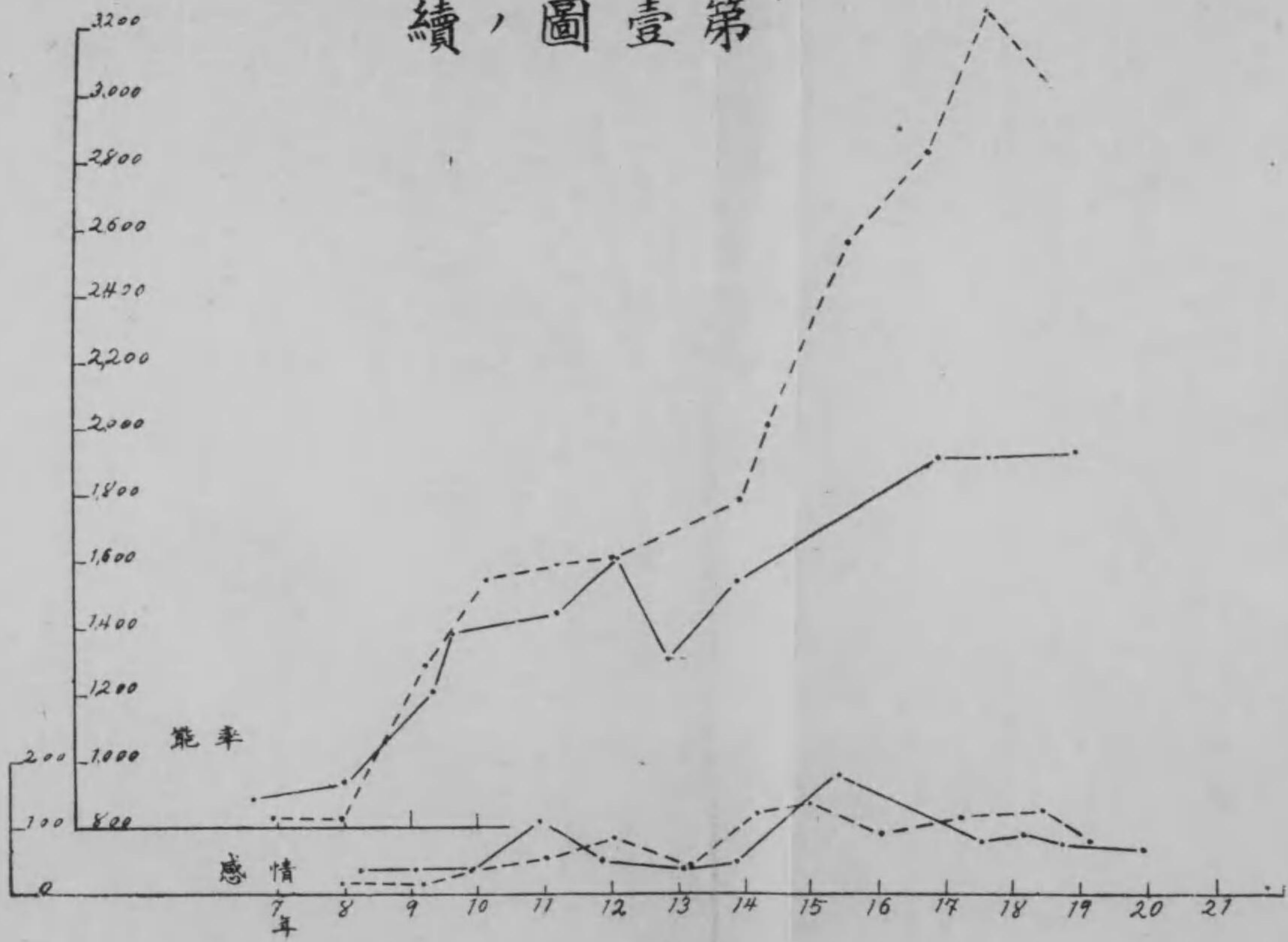


續, 圖壹第





續，圖壹第



のてま年丁り上館華
究研育發神精

大正十一年五月廿七日印刷
大正十一年五月廿日發行

所 版
有 權

定 價 金 四 圓

發 行 所

東京市下町一丁目一番地
電話二一八八
〇五三八
三四〇一

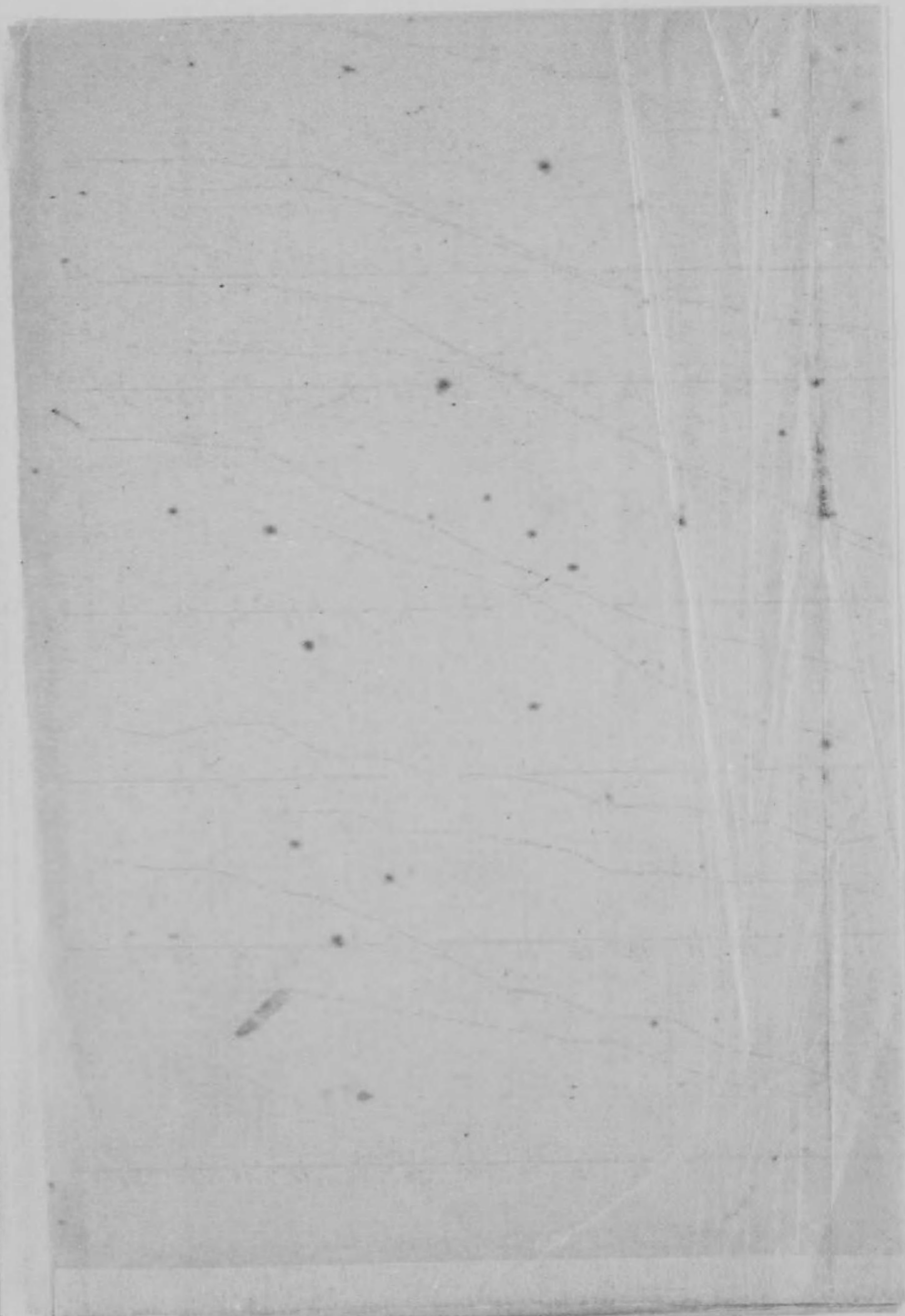
改 造 社

印刷者 石川金太郎

發行者 山本美

著者 楠保三郎

東京株式會社 秀英印刷



IT-3R-37



終

